

## AVR520 : ATtiny13からATtiny13Aへの移植

### 1. 序説

更なる消費電流削減と製造工程最適化のため、ATtiny13の最適化版が導入されています。

ATtiny13AはATtiny13に対するちょっとした置換で機能的に同じです。全てのデバイスは同じ品質証明工程と製造検査に従いますが、製造工程が同じではないのでいくつかの電気的特性が異なります。加えて、低電圧検出器(BOD:Brown-Out Detector)や電源ONリセット(POR)のないいくつかのアナログ単位部の性能が改善されています。いくつかの新機能もATtiny13Aに追加されています。

ATtiny13とATtiny13Aには独立したデータシートがあります。本応用記述はこの2つのデバイスとデータシート間の違いを略述するのが狙いですが、ATtiny13Aデータシートの最後で使用者を援助するための詳細な変更記録もあります。デバイスのデータシートの最終版を常に使うことを忘れないでください。

上限と下限が同じに留まる限り、代表特性に於ける小さな違いは本資料で検討されません。代表特性についての詳細な情報に関してはデバイスのデータシートの「電気的特性」と「代表特性」項をご覧ください。

**注:** 本応用記述は簡単な移植のための指針として扱います。完全なデバイス詳細については常にATtiny13Aデータシートの最終版を参照してください。

### 2. 特性での変更

本項は使われるデバイスで影響されるかもしれない、そのような特性での違いを略述します。詳細情報についてはデバイスのデータシートの最終版を参照してください。

#### 2.1. 消費電流

活動とアイドルの動作形態での(ATtiny13A)デバイスの消費電流は減少されています。以下の表は室温での消費電流代表値を表します。全ての値は別の注記がなければデバイスのデータシートからの引用です。

表2-1. 室温でのデバイス代表消費電流

動作種別	条件	ATtiny13	ATtiny13A	変化率
活動	VCC=1.8V, f=1MHz	240μA	190μA	-20%
	VCC=5.5V, f=20MHz	13mA	8.8mA	-30%
アイドル	VCC=1.8V, f=1MHz	220μA	24μA	-90%
	VCC=5.5V, f=20MHz	4.0mA	1.7mA	-60%
リセット	VCC=1.8V, f=1MHz	7μA	5μA	-30%
	VCC=5.5V, f=20MHz	2.9mA	1.25mA	-60%

表2-2. 室温での周辺機能代表消費電流

動作種別	条件	ATtiny13	ATtiny13A	変化率
アナログ比較器	VCC=1.8V	60μA	60μA	±0%
	VCC=5.5V	130μA	80μA	-40%
A/D変換器	VCC=1.8V	180μA (注)	170μA	-5%
	VCC=5.5V	400μA (注)	360μA	-10%
低電圧検出器 (BOD)	VCC=1.8V	21μA	16μA	-25%
	VCC=5.5V	28μA	23μA	-20%

**注:** これらの値はATtiny13Aと同じ検査台、同じデバイス構成設定を使って得られたものです。ATtiny13データシートでの値はこれと異なる設定を使って得られたものです。



8ビット **AVR**<sup>®</sup>  
マイクロコントローラ

## 応用記述

本書は一般の方々の便宜のため有志により作成されたもので、Atmel社とは無関係であることを御承知ください。しおりのはじめにでの内容にご注意ください。

Rev. 8157C-05/09, 8157CJ2-04/21

## 2.2. VOL/VOHレベル

表2-3.ではLowとHighの出力電圧レベルでの違いが一覧にされます。

表2-3. VOLとVOHレベルの変更

シンボル	パラメータ	条件	ATtiny13		ATtiny13A		単位
			Min	Max	Min	Max	
VOL	PB0~4ピン	VCC=5V, IOL=20mA	-	0.7	-	0.8	V
		VCC=3V, IOL=10mA	-	0.5	-	0.6	
VOH	PB0,1ピン	VCC=5V, IOH=20mA	4.2	-	4.0	-	
		VCC=3V, IOH=10mA	2.5	-	2.3	-	

## 2.3. リセット

表2-4.はATtiny13とATtiny13Aのリセット回路間の違いを要約します。

表2-4. 電源ONリセット

シンボル	ATtiny13			ATtiny13A			単位
	Min	Typ	Max	Min	Typ	Max	
V <sub>POR</sub>	-	1.2	-	1.1	1.4	1.6	V
V <sub>POA</sub>	-	1.1	-	0.6	1.3	1.6	V
SRON	-	-	-	0.01	-	-	V/ms

## 3. 新ビットと新レジスタ

表3-1.では機能強化の結果としてデバイスに追加されたレジスタとビットが一覧にされます。ATtiny13でのこれらのレジスタとビットは予約として記されています。

表3-1. ATtiny13Aに於ける新レジスタと新ビット

アドレス	レジスタ名	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
\$30	BODCR	-	-	-	-	-	-	BODS	BODSE
\$25	PRR	-	-	-	-	-	-	PRTIM0	PRADC

機能強化のより多くの詳細についてはATtiny13Aデータシートをご覧ください。

## 4. 変更の要約

変更の要約についてはATtiny13Aデータシートの最後での改訂履歴をご覧ください。



## 本社

### *Atmel Corporation*

2325 Orchard Parkway  
San Jose, CA 95131  
USA  
TEL 1(408) 441-0311  
FAX 1(408) 487-2600

## 国外営業拠点

### *Atmel Asia*

Unit 1-5 & 16, 19/F  
BEA Tower, Millennium City 5  
418 Kwun Tong Road  
Kwun Tong, Kowloon  
Hong Kong  
TEL (852) 2245-6100  
FAX (852) 2722-1369

### *Atmel Europe*

Le Krebs  
8, Rue Jean-Pierre Timbaud  
BP 309  
78054 Saint-Quentin-en-  
Yvelines Cedex  
France  
TEL (33) 1-30-60-70-00  
FAX (33) 1-30-60-71-11

### *Atmel Japan*

104-0033 東京都中央区  
新川1-24-8  
東熱新川ビル 9F  
アトメル ジャパン株式会社  
TEL (81) 03-3523-3551  
FAX (81) 03-3523-7581

## 製品窓口

### ウェブサイト

[www.atmel.com](http://www.atmel.com)

### 技術支援

[avr@atmel.com](mailto:avr@atmel.com)

### 販売窓口

[www.atmel.com/contacts](http://www.atmel.com/contacts)

### 文献請求

[www.atmel.com/literature](http://www.atmel.com/literature)

お断り: 本資料内の情報はAtmel製品と関連して提供されています。本資料またはAtmel製品の販売と関連して承諾される何れの知的所有権も禁反言あるいはその逆によって明示的または暗示的に承諾されるものではありません。Atmelのウェブサイトに位置する販売の条件とAtmelの定義での詳しい説明を除いて、商品性、特定目的に関する適合性、または適法性の暗黙保証に制限せず、Atmelはそれらを含むその製品に関連する暗示的、明示的または法令による如何なる保証も否認し、何ら責任がないと認識します。たとえばAtmelがそのような損害賠償の可能性を進言されたとしても、本資料を使用できない、または使用以外で発生する(情報の損失、事業中断、または利益の損失に関する制限なしの損害賠償を含み)直接、間接、必然、偶然、特別、または付随して起こる如何なる損害賠償に対しても決してAtmelに責任がないでしょう。Atmelは本資料の内容の正確さまたは完全性に関して断言または保証を行わず、予告なしでいつでも製品内容と仕様の変更を行う権利を保留します。Atmelはここに含まれた情報を更新することに対してどんな公約も行いません。特に別の方法で提供されなければ、Atmel製品は車載応用に対して適当ではなく、使用されるべきではありません。Atmel製品は延命または生命維持を意図した応用での部品としての使用に対して意図、認定、または保証されません。

© Atmel Corporation 2009. 不許複製 Atmel®、ロゴとそれらの組み合わせ、AVR®とその他はAtmel Corporationの登録商標または商標またはその付属物です。他の用語と製品名は一般的に他の商標です。

© HERO 2021.

本応用記述はAtmelのAVR520応用記述(doc8157.pdf Rev.8157C-05/09)の翻訳日本語版です。日本語では不自然となる重複する形容表現は省略されている場合があります。日本語では難解となる表現は大幅に意識されている部分もあります。必要に応じて一部加筆されています。頁割の変更により、原本より頁数が少なくなっています。

必要と思われる部分には( )内に英語表記や略称などを残す形で表記しています。

青字の部分はリンクとなっています。一般的に赤字の0,1は論理0,1を表します。その他の赤字は重要な部分を表します。